

福岡市水道水源かん養事業基金 第22回運営委員会 議事録

- 1 開催日時 平成27年6月3日(水) 10時00分から11時30分
- 2 開催場所 水道局本館4階 局議室
- 3 委員数 9名
- 4 出席者 7名
- 5 議事
 - I 平成26年度事業実績について
 - II 平成27年度事業について
 - III 今後の基金活用計画について

●基金概要について・・・・・・・・・・事務局説明

●議事Ⅰ 26年度事業実績について・・・・ //

●議事Ⅱ 27年度事業について・・・・ //

【質問・意見】

委員：福岡都市圏流域連携基金事業の負担金が終了したということは、これまでやっていた事業が終わるということか。

事務局：事業は、引き続き実施していく。流域連携基金は、平成17年度の設定から10年間積立をすることになっており、10年経って基金額が約3億2千万円ある。平成27年度以降は、積立金を取り崩しながら事業を行う。27年度からは積立はしないということである。

委員：平成26年度の事業実績について、造林の決算額が予算額の半分程度になっている。しかし、今年度も同じ額で予算額を計上されているが、何か理由があるのか。

事務局：造林は、竹林を伐採して、木を植える作業になる。事業実施前年度の予算要求時には、施業を実施する範囲の確定が難しい面があるため、作業実績による決算額との開きが26年度は出てしまったものである。

●議事Ⅲ 今後の基金活用計画について・・・・事務局説明

【質問・意見】

委員：伐竹の時期についての提案。竹は冬頃切っても次の年、タケノコは生えてくる。夏までに伐竹を行うと、施業が1回で済むため、費用対効果も上がるのではないか。無理をしてでも夏前に伐竹をした方がよいと思う。

事務局：伐竹については、大きな範囲の施業は、森林組合に委託しているが、小さな範囲は、当課の職員が自分達で実施しているところである。

伐竹の時期、範囲など、森林組合と協議して進めていきたいと考えている。

委員：枝打ちは、基本的には人工林の中で、より良い木材を取り、より高額で売買する

ために行うものであり、水道局が行う水源かん養のためには意味がないので、高額な費用を支払ってまでする必要はないと考えている。

森林整備の項目から枝打ちを外すことで、経費が削減できるのではないかと思う。間伐は年何回しているのか。

事務局：7年に1回周期で行っている。

委員：それは、木材を取るためのやり方であり、40年位であれば、除伐して1回位の間伐でよく、60年ならほとんど行う必要がない。木材を取るなら2回位でよい。間伐を減らすことで、経費の削減ができるのではないか。

次に、施業のやり方についてだが、ある程度平坦なところであれば、強く間伐をする方法がある。100本あれば、そのうちの半分とか2/3位を切り、自然更新をさせるという方法である。この方法は、一時的に水源かん養機能は落ちるかもしれないが、トータルコストとしては、広葉樹を植える方法より広い範囲の施業ができる可能性が高いと思う。

今、木材の価格は、高額で売買できていた一時期の1/3とか1/4とかになっているが、バイオマス関係で山の中にある未利用の間伐材が結構使われている。バイオマス発電の燃料となる間伐材については、価格が従来の2倍くらいになるので、出荷量も増えている。そのようなことを考慮して施業を行うことで、コストが安く、出された間伐材も無駄にならないのではないかと思う。

トータルで、その山の地域に合った施業をすべきで、一番効率的・効果的なことを考えられたらどうか。

事務局：森林整備を行う現場によって日当たりや、急傾斜地の状況とか、隣接する民地の状況等を考慮しながら、長い目で実施していかねばならないと考えている。いろいろな制度の情報等、委員の皆様から教えていただきながら実施していきたい。枝打ちについては、平成17年度まで行っていたが、平成18年度以降は行っていない。

委員長：基金でお金を出されている主なものは、伐採、間伐のほかは、交流関係がほとんどなのか。

事務局：金額的には、市内水源かん養林整備事業が主なものである。

水源地域との交流事業については、27年度は260万円の予算が計上されているが、この部分の見直しを図りながら、市内水源かん養林整備事業も、見直しをしていきたいと考えている。交流事業としては、基金を活用して行っているものだけではなく、水道事業会計予算を活用しての交流事業もある。引き続き同様の交流事業を、内容的にも遜色がない形で実施していきたいと考えている。

委員長：受け入れ側の地元の人手が足りなくなって、だんだん、人的パワーが少なくなったらどうなるのか。

事務局：受け入れ側の地元の熱心な中心の方々は、高齢化しており、交流事業が負担になっているのではと思われる場面もあるが、水道局としては、引き続き、地元の実

情に合った形で、お互い負担感がないように事業を進めていこうと考えている。

委員：今後は、相手方の動向を見ながら、相手方の負担にならない形で事業を進めていくということか。今年度、相手方と事業の見直しについて協議して、地元の反応を見ながら、または、相手方からの提案があれば基金がなくなるからと無理な見直し等にならないように検討して、交流が維持できるような進め方が必要。

事務局：一年間かけて、相手側と見直しについて協議をしながら引き続き事業を実施していきたいと考えている。

結果については、次回以降の運営委員会の中で、報告をさせていただきたいと思っている。引き続き、皆様には、ご協力をお願いしたい。